災害救援本部通信

No.6
発行日：2012年4月13日
発行所：真宗大谷派宗務所（組織部）
発行人：災害救援本部長 岩坂賢龍

東日本大震災救援金についてのお願い

救援金について、引き続き皆さま方のあたたかいご支援を重ねてお願い申し上げます。

救援金口座
〈郵便振替口座番号〉０１０３０-４-２２４４
〈加入者名〉真宗大谷派宗務所財務部（救援金）

振替用紙の通信欄に「東日本大震災救援金」と明記くださるようお願いいたします

東日本大震災 宗派の対応　[災害救援本部]

東日本大震災救援金について（収支報告）

「東日本大震災」へ寄せられた救援金は、2012年2月29日現在で6億7千万円を超える救援金を宗派にお届けいただきました。

また、救援金総額のうち4億7千6百万円を、被災教区をはじめ、被災市町村・あしなが育英会等に給付させていただきました。

今後、長期的な支援を行っていくにあたり、届けられた救援金は福島第一原子力発電所の事故により被災された方々を中心に、宗派として計画的な復興支援を行う資金として使用することができるよう、2月に招集されました宗会（臨時会）の議決を経て、「東日本大震災復興支援資金」を設けました。既に、3月1日現在で保管しています救援金を全額、資金に繰り入れております。

つきましては、これまでの救援金総額とその使途及び現地に搬送した救援物資を下記のとおり報告いたします。

東日本大震災救援金収納状況

（2012年2月29日現在）

収納区分	金　額	備　考
本山（真宗本廟）現金受付	25,147,759	被災者支援のつどい（3/19～28） 第２期御遠忌法要（4/19～28） 春の法要（4/1～3）・全戦没者追弔法会（4/16） 岡崎教区の日（5/2）・子ども御遠忌（5/4） 第３期御遠忌法要（5/19～28） 御正当報恩講、チャリティーブックフェア（11/19～29）
本山災害救援金箱	41,553,717	各所災害救援金箱
その他（救援金口座振込分ほか）	100,803,912	各寺院から救援金口座に振込まれた現金も含む
教区	492,770,847	30教区の合計
開教区	12,535,864	南米開教区、北米開教区、ハワイ開教区
合　計	672,812,099	

搬送 救援物資

総量…搬送救援物資67トン
（ただし、搬送トラックの積載量。混載便・宅配便等は含まず）

［主な救援物資］
①食　品／米 20トン・水 10トン・レトルト食品 17,000食・カップ麺 5,000食
②生活用品／毛布 2,000枚・衣類 1,300点・衛生用品（トイレットペーパー、オムツ、生理用品等）5,000点
③御本尊等／1,800組

東日本大震災 救援金

収入……救援金総額	672,812,099円	（2012年2月29日現在）
支出……給付総額	476,000,000円	（2012年2月29日現在）
救援金残額	196,812,099円	（2012年3月1日現在）

救援金第1次給付 370,000,000円

①被災教区
・仙台教区 ―― 150,000,000円
・東京教区 ―― 37,000,000円
・奥羽教区 ―― 1,000,000円
・山形教区 ―― 1,000,000円
②被災市町村　6県63市町村 ―― 171,000,000円 ※1
③奨学金（あしなが育英会） ―― 10,000,000円

※1 被災市町村への給付内訳（第1次給付）

給付先	市町村数	給付額
【岩手県】陸前高田市、上閉伊郡大槌町　【宮城県】気仙沼市、石巻市	4	各1,000万円
【岩手県】釜石市　【宮城県】東松島市、名取市、牡鹿郡女川町、本吉郡南三陸町　【福島県】南相馬市	6	各700万円
【岩手県】宮古市、下閉伊郡山田町　【宮城県】仙台市、亘理郡山元町	4	各500万円
【岩手県】大船渡市　【福島県】相馬市、双葉郡浪江町 【茨城県】北茨城市、日立市、神栖市　【千葉県】旭市	7	各300万円
【宮城県】多賀城市、岩沼市、亘理郡亘理町　【茨城県】常陸太田市 【福島県】田村市、いわき市、双葉郡楢葉町、双葉郡富岡町、双葉郡川内村、双葉郡大熊町、双葉郡双葉町、双葉郡葛尾村、相馬郡新地町	13	各200万円
【福島県】相馬郡飯舘村	1	各150万円
【岩手県】下閉伊郡田野畑村、九戸郡野田村　【宮城県】塩竈市、宮城郡七ヶ浜町 【福島県】須賀川市、白河市　【茨城県】高萩市、ひたちなか市、水戸市、鹿嶋市、潮来市 【千葉県】千葉市、浦安市	13	各100万円
【茨城県】桜川市、つくば市、土浦市、稲敷市、鉾田市、行方市、東茨城郡茨城町、東茨城郡大洗町 【栃木県】宇都宮市、芳賀郡益子町、那須郡那須町　【千葉県】松戸市、習志野市、香取市、山武市	15	各50万円

救援金第2次給付 106,000,000円

①被災教区　・仙台教区 ―― 100,000,000円
②被災市町村　3県10市町村 ―― 5,000,000円 ※2
③真宗教団連合募金 ―― 1,000,000円

※2 被災市町村への給付内訳（第２次給付）。第１次給付後に被害が明らかとなった市町村等に給付。

給付先	市町村数	給付額
【茨城県】那珂市、笠間市、石岡市、小美玉市、下妻市、東茨城郡城里町、那珂郡東海村 【栃木県】矢板市、那須烏山市　【千葉県】銚子市	10	各50万円

第2回「ボランティア研修会」開催　東日本大震災被災地で、ボランティアの実践を学ぶ

2月29日から3月2日まで、第2回「ボランティア研修会」が東北別院において開催されました。

今回は、東日本大震災から1年が過ぎようとする中で、ボランティアの実践を学ぶことを願いとしました。参加者は、教区から推薦を受けた26名と、大谷大学・同朋大学の学生4名を含む30名です。

初日は、ボランティア委員会委員である木越康氏（大谷大学准教授）から「ボランティアと真宗」と題した基調講義が行われました。木越氏は、「ボランティア活動に参加した学生たちは一様に「何もできない」という感想を抱く。その体験が「自力無功」を痛みと共に実感させるのであって、はじめから「自力だ」といってボランティア的活動を躊躇するようなことがあるならば、それは明らかに真宗理解の誤りである」と話されました。

引き続き、パネルディスカッションが行われ、自らも被災されながら、本堂を避難所として開放された千葉寿子さん（仙台教区）は、「今、被災地で一番求められている支援は何か」との質問に「『忘れないで』という言葉につきるのでは」と語られました。また、第1回ボランティア研修会修了生で、炊き出し・足湯を中心に活動してきた金子光洋さん（高田教区）は、「震災そのものではなく、『被災地を生きている私たちを忘れないで』、という声だと感じる」と話されました。

2日目は、足湯・炊き出しの2班に分かれて、ボランティアの実践が行われました。足湯を行うグループはまず、ボランティアきずな館（宮城県七ヶ浜町）で足湯の効能と方法を学び、その後2ヶ所の仮設住宅で足湯を実践されました。

また、炊き出しを担当するグループはナガワ仮設住宅（宮城県山元町）に赴きました。材料の買い出しから始まる中華丼の炊き出し実習は大盛況で、当初予定の80名を大幅に上回る150名の方が並ばれました。また、炊き出し後も青空喫茶や念珠づくりをとおして、仮設住宅の方々と触れ合う時間を過ごしました。

最終日には、木ノ下秀俊氏（現地復興支援センター主任補佐）から、「福島を考える」と題した講義を聴講しました。「今福島に暮らしているのは、様々な理由で『ここで生きていく』ことを選択せざるを得なかった人たち。そこに福島支援の難しさがある。しかし、支援の方法は必ずあるはず」と語り、報道等では伝えきれない福島の現状に、参加者は衝撃を隠せない様子でした。

清谷真澄現地復興支援センター主任は、「ボランティアは自己完結が基本。しかし、自分だけでははとても対応できない、と感じる場面も多い。参加者同士が仲間となり、繋がりを大切にすることで、互いに補い合える関係になれば」と閉会の挨拶を述べ、研修会の全日程は終了しました。

研修会に参加して（参加者アンケートより）

被災地から遠く離れた場所に暮らしていると、何ともいえない焦りと、後ろめたさを感じていました。同時に、どこかで人事だと感じている自分が嫌だと感じてもいました。しかし、今回被災者のお話のなかで、「忘れないこと」が一番の願いといっていただき、たとえ現地に行けなくても、微々たる募金しかできなくても、ボランティアできているのではないかと思うことができました。

「東本願寺」という事で話しかけてきた方がおられて、その方のであいを聞く事が本当に良かった。涙を浮かべながらのお話をされたのが印象的でした。

足湯を楽しみにされていた様で開始時に10人位人が集まり、お話をさせていただきました。「次はいつ来るの？」と、お声をいただきました。その一声が「まってるよ」と聞こえました。

最初持っていたボランティアに対するネガティブなイメージを忘れる程、前向きに取り組めた。

すごくよい経験になりました。自分で止めてしまわないよう、身近な人達に伝えていきたい！

仙台教区 親鸞教室

東日本大震災で被災した仙台教区では、震災以降計画をしていた教区教化事業を全て中止にせざるを得ない状況でありました。その中でも、教区の教化重点施策であります「親鸞教室」（組ではなく１寺院を対象に法座を開催するというもので、1年度2会所を指定し、将来的には教区内全ヵ寺（106ヵ寺）での開催を願う事業）も例外ではなく、開催寺院であった浜組光景寺はいわき市にあることから、若いスタッフへの放射能の影響を考えて、暫く様子を見ようと相談していました。ところが、休止をお伝えしたときに住職から、「参加者が親鸞教室を楽しみにしている。聞法に飢えている。大変な時期ではあるが、是非再開していただきたい」との強い要望があることを語られました。教区教化委員会ではこの思いを受け、震災から間もない2ヵ月後の5月から親鸞教室を再開し、無事12月に終了することが出来ました。

更に、本年から始まる親鸞教室の事前会議でも、「このような大変な状況ではあるが、だからこそ仏法に聞かなければならないのではないか」との意見により、新たな寺院を指定して開催することとなりました。そして、津波により甚大な被害を受けた岩手県大船渡市の気仙組長安寺に打診をし、住職から快諾をいただきました。しかし、事前打ち合わせの中で、「果たして参加者はいるのだろうか」ということが懸念されましたが、実際募集を開始してみると、140名を超える申し込みがあり、今もなお申し込みが途切れないような状況です。

スタッフでもある副住職の金暁正氏は次のように語っておられます。

「親鸞教室を開催するにあたって、昨年末、被災されたご門徒の皆さんをお見舞いに伺うときに案内させていただいたのですが、それまでにないほどの仏法、聞法に対する「熱」を感じました。震災から一年を経た今も、かけがえのない肉親、友人、知人を突然亡くした悲しみ、また生まれ育った我が家を失った喪失感が未だに被災地全体を覆っています。この状況において、人々と共に悲しみの時代を生き、お念仏の歩みを進めた、宗祖親鸞聖人のみ教えをたずねる「場」が求められているのだと思います。

私たちの気仙地方は毎年秋から年末にかけて、ご門徒のお宅一軒一軒で、在家の報恩講である「お取り越し」をお勤めするという慣わしが今でも息づいている地域です。家族、親戚が一同に集い、『正信偈』をお勤めし、皆でお斎を頂く光景からはこの気仙の地にお念仏の法灯が確かに受け継がれてきたことを感じます。しかし昨年度は震災により、その伝統の法会も、仮設住宅での暮らしを余儀なくされている方々は、やむなく寺で勤めるという形を取らざるを得ませんでした。「お取り越しが勤まらないと、年が越せる気がしない。このような形にはなったが、勤められて本当によかった。また、散り散りになってしまった地域の人たちが今日お取り越しによって一同に集まれたことがうれしい」という声が今でも胸に残っています。

「復興」ということが声高にメディアを中心に叫ばれて久しいですが、「復興」とは単に物理的なものが以前の様子に戻るということでは決してないはずです。その土地に身を置く人々の深い悲しみ、苦しみと共に教えを聞き、確かな歩みを進めていくことにのみ、人間一人ひとりの「復興」があるのではないでしょうか。その中心になるような「場」として親鸞教室が開かれていくことを願うばかりです。」

「東日本大震災後方支援地区」花巻組の活動

遠野市萬通寺・和田演郎

仙台教区花巻組は20ヵ寺で形成し、組内を5ブロックに分けております。その内、被災した沿岸・釜石市（1ヵ寺）と内陸・遠野市（4ヵ寺）の5ヵ寺は東部ブロックとして位置づけております。

遠野市の復旧支援ボランティアセンターの存在は、様々なメディアを通じて報道がなされていることから、全国的にも広く知られており、当組ではセンターの後方支援活動として、釜石市と大槌町を支援重点地区に定めました。その中でも特に釜石市の寶樹寺へ集中的な支援活動が行えるよう、近隣で津波被害がなかった遠野・萬通寺を拠点地としました。

支援活動への取り組みを考えるにあたっては、まず組の執行部4人で釜石市鵜住居町田郷の仮設団地に入り、寶樹寺門徒の佐藤勲さん夫妻らと今後の支援のありかたを探りました。厳しい寒暖の季節に順応できる衣類や機器が少ない課題が出されましたが、物資が多ければ住居空間が狭くて置き場がなくなる生活環境に加えて、何より気になったのは、集会所は用意されていても自治活動の組織化がなされていないことでありました。

さしあたり、まず何をすべきか検討したところ、猛暑である状況に鑑みて、1個500円のアイスベルト200人分を花巻・遠野市周辺で買い集めて届けたのが組として最初の支援活動でありました。継続した取り組みを進めていくには予算の課題がいつも懸念される中、組の年間教化計画のひとつであります「同朋講座」に1ブロック15万円の予算を計上していましたので、その全ての経費75万円を支援活動に振り替えようと組会・組門徒会で議決し、また組内全ヵ寺からのカンパをお願いして活動資金を確保しました。

救援物資は、1ヵ寺ごとに門徒さんから集めブロック毎に集約し、支援拠点である萬通寺に運び込みました。そして、仮設団地側の受け入れ日程が決定次第、借り上げトラックで搬入しました。多くの門徒会員の方も協力いただきました。天神町や田郷団地などでは、現地復興支援センターの清谷主任ら多数の方々と活動をともにし、豚丼の炊き出し、物資のお渡し、足湯と傾聴、念珠づくりなどを行いました。

特に、「念珠づくり」は好評でありましたので、組単独でも技術習得をして仮設団地の皆さんと共に作ろうと思い立ち、先日、教区主催で念珠作りの講習会があり、ボランティア活動の主力メンバーである門徒会員7人に習いに出かけていただきました。仙台教区仏青のメンバーから長時間熱心に教えていただき、また女性門徒さん方が「四角結び」などを幼いころ遊びで覚えていたこともあって、もう１回花巻あたりで講習会を開催すれば、ほぼマスターできるなとみんなで話し合っています。材料費や指導スタッフへの経費がいつも気にかかりますが、広く多数の参加を呼びかけ「念珠づくりと傾聴」を花巻組の支援の柱の一つにしたいと思っています。

去る2月9日に、組で「原発事故を考える」研修会を開催しました。講師の現地復興支援センターの木ノ下さんは、現地で直接目の当たりに地震と津波と原発事故に遭遇されています。被災寸前の自身と家族の避難行動、家族との分離生活、原発事故による放射能被害の現状等を体験当事者として話されました。木ノ下さんからの「傍観していませんか？」「知らん振りですか？」という問いかけを受け取り、原発を推進する政界と経済界を鋭く注視しながら、組の共有課題として考えていきたいと話し合っています。

宗祖聖人は、90年のご生涯に28回の災害に遭われたといいます。それから750年過ぎて、宗祖の懐かれたであろう時代の悲嘆と自然法爾の感慨を我々は共に相続しているのでしょうか。3月11日には、組内から大型貸切バスで同朋が参集し釜石・寶樹寺で大震災追弔会を厳修しました。寶樹寺の亡くなられたご門徒のご遺族とともに、1万9千余の死亡・行方不明者全員を諸仏として仰ぎながら南無阿弥陀仏を称えさせていただきました。

東北・関東大震災　復興応援歌

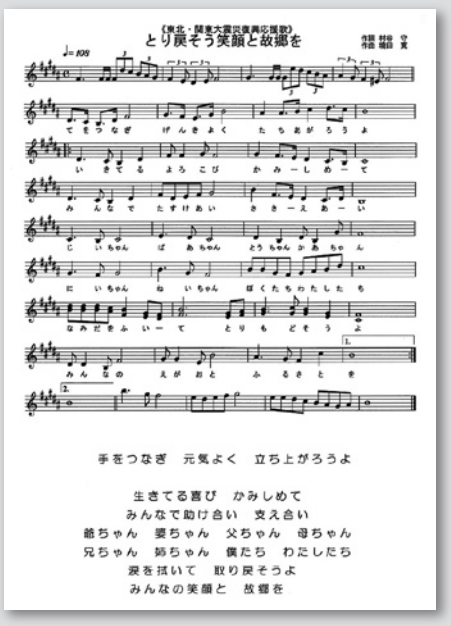
災害救援本部通信第５号でご紹介した「復興応援歌」について、「どんな歌詞か知りたい」という声を多くいただいております。下記に全文を掲載いたします。

生きている　命ある限り　皆んなで
手をつなぎ　さあ　立ち上がろう
顔を上げ　涙をふいて　落している肩を
両手を上に　さあ　立ち上がろう

じいちゃん　ばあちゃん　とうちゃん
かあちゃん　にいちゃん　ねえちゃん　そして
ぼくたち　私たち

顔を上げ　涙をふいて　落している肩を
両手を上に　さあ　元気に立上がろう

ぼくたち　私たちの　ふる郷の村
ぼくたち　私たちの　ふる郷の町に
皆んなで　この歌を　歌おう



CDは、1枚1,000円で販売しています。その収益は救援金として後日、本山に届けられます。
宗派ホームページにて視聴可能です。

問い合わせ先／室内パークゴルフ倶楽部村　☎0166-47-8039

「現地復興支援センター」ホームページ http://fsc.higashihonganji.or.jp

ホームページ内のブログでは、最新の現地復興支援センターや各教区のボランティアの活動日誌に加え、「ボランティアの募集」「救援物資のお願い」等についても随時掲載し、被災者の方々に対する支援活動をお知らせしています。被災地におけるボランティア活動の今を伝えるホームページをぜひご覧ください。

■現地復興支援センターの主な活動は、
ホームページ「ブログ」にて掲載しています。

当派の寺族、門徒、関係学校在学生又は卒業生であって、東日本大震災へのボランティア活動を希望される方で、現地復興支援センターのサポートを希望される方は、下記までお問い合わせください。

東日本大震災「現地復興支援センター」
〒983-0803 宮城県仙台市宮城野区小田原1丁目2番16号［仙台教務所内］
TEL：090-7345-5049　FAX：022-297-2827
E-mail　otaniha-f.s.center@watch.ocn.ne.jp

福島県の被災者の方々に飲料水をご提供ください

日々必ず口にするお水。福島県では、特に乳幼児や妊婦を中心に、安心して飲むことのできる「飲料水」の需要が高まっております。

災害救援本部では、特に福島県に住まわれる方々への支援として、全国のご寺院・ご門徒に対し、「飲料水」の提供を呼びかけております。

皆さまのご協力をお願いいたします。

■提供方法

飲料水（１本あたりの内容量や規格については問いません。）を**直接「現地復興支援センター」（下記参照）までお送りください。**

なお、提供いただく際の費用につきましては、大変お手数ですが、各位でご負担いただきますようお願いいたします。

東日本大震災「現地復興支援センター」
〒983-0803 宮城県仙台市宮城野区小田原1丁目2番16号［仙台教務所内］
TEL：090-7345-5049　FAX：022-297-2827
ホームページアドレス　http://fsc.higashihonganji.or.jp/